

2019年度第1回（通算第102回）
山口国際文化化学研究会

■ 行動論的アプローチから観光まちづくりを考える

— 新たな手法 “VERM (The verbs extracting research method)” 開発を中心に —

■ 発表者 国際文化化学研究科 教授 齊藤 理

近年、グローバルスケールで展開する観光交流に注目が集まるにつれ、市民活動（エンパワメント）を観光まちづくりに活かす方法論をめぐっても世界的に強い関心が向けられつつありますが、今回、この領域における学術的ならびに政策的な先進国・ドイツを調査地とし、とくに文化遺産を維持・保存しつつ、観光まちづくりに活用している事例分析を進めました。

主たる調査地であるベルリンは、東西分断という極めて特殊な史的背景を持っていますが、今日、むしろ多様な歴史観・文化観を顕在化させ、繋ぎ合わせつつ、市民の内発的な文化活動を観光まちづくり促進へと有機的に集約させることに成功しています。

この度の研究会では、こうしたドイツでの研究動向を取り上げるとともに、これを踏まえ、発表者が独自に開発中のVERM法（人の行動論（動詞）を軸に観光まちづくりを進めていくことができるグローバルスタンダード・プロトコル）導入の可能性と意義について紹介します。

■ 日 時 2019年5月22日（水曜日）16時25分より

■ 場 所 山口県立大学 北キャンパス B204 教室

（山口県山口市桜島 3-2-1）

■ 主 催 山口県立大学大学院国際文化化学研究科

（一般参加可）

教員世話人 山口 光 / 院生世話人 辻本梨紗、王曾芝、木谷 曜子、下川 まつ糸